

農大と 図書館・博物館・動植物園を結ぶネットワーク

学術情報課程通信



農大

情報時代の展示と学び

一般財団法人進化生物学研究所 理事長・所長

湯浅 浩史

現代、私達は情報の洪水の中で生きている。テレビ、パソコン、スマホに接しない日はない。ただ、そこから得られるのは人工的な機器を通した目と耳の情報である。

私は海外のフィールドに出かけることも多いが、時間が許す限り訪れるのは、市場、植物園や博物館である。

市場はその地の生活が端的につかめる。何を食べ、着、利用し、暮らしているのか、人々のやり取りやさまざまな匂いが混ざり合う中で、実感できる。

植物園で印象的だったのは、南アメリカのステレンボッシュ植物園の目の不自由な人も楽しめる植物コーナー。香りのある花や植物が触れられ、手すり沿いに点字板で説明がされていた。

また、南アフリカ、プレトリアの植物園では外来植物のユーカリやジャカランダが檻に入れられ、「指名手配、生かすな、殺せ」の標語のもと、手錠を置き、プラントボリスが新しく植えるのと侵略的外来植物と同様に罰金を取ると警告していた。ジャカランダはプレトリアの街路樹だが、雨の少ない地の土壌水分を奪うからだそうだ。ユニークな啓発展示に乾燥地の気候変動の深刻さが伝わる。

チリのサンチャゴの国立博物館では、ガラスで隔てられてはいたが、研究者の化石のクリーニングの様子を見せていた。いわば博物館の舞台裏の仕事

の公開である。使う道具や化石と共にクリーニング中の研究者の動きそのものも「展示」と言えよう。

東京農業大学「食と農」の博物館に隣接する進化生物学研究所のバイオリウムは、世界の各地から収集された貴重な植物を育て、その相同と相似、木から多肉植物への進化、また、特有の油が採れるホホバやコバイフェラのような資源植物などを地理的に区分けして植栽し、景観展示している。植物だけでなく、マダガスカル原猿のレムール類も飼育、金網越しだが棲息地のバオバブやディディエラ科などの固有の植物を対面に配置し、動物と植物との共存展示をはかっている。レムールが時に鋭く鳴けば、現地の森に思いをはせられよう。

従来の動物園の展示施設は動物園なら動物、植物園は植物と決まった分野の展示に限られていた。しかし、自然界では動物と植物を切り離すことはできない。その共存状態、動物が暮らしている地域の植物を組み込んだ生態展示が理想的である。現実には温度条件をはじめ難しい面を伴うが、目指したい展示である。

情報のあふれる時代ならばこそ、実物に接し、五感を通した学びが一層重要になる。学術情報を学ぶ上でも、これからの情報発信に向けて、従来にない視野を広げられるよう学んで欲しい。

令和元年度
資格取得
状況

東京農業大学

資格取得者数

学 部	農学部	応用生物科学部	地域環境科学部	国際食料情報学部	生物産業学部	科目等履修生	合計
学芸員	89	21	32	18	20	2	182
司 書	29	11	17	14	—	1	72

令和2年度 学芸員・司書関連新規就職先一覧

令和3年2月現在

	学 科	就職先
現役	学芸員	農学研究科博士後期課程 一般財団法人自然環境研究センター
		農学研究科博士前期課程 千葉県立中央博物館
		農学研究科博士前期課程 茅ヶ崎市歴史文化交流館(仮称)
		農学科 石川県ふれあい昆虫館(臨時)
		畜産学科 株式会社雪印こどもの国牧場
		森林総合科学科 体感型カエル館KawaZoo カワズー
		地域創成環境学科 一般財団法人公園財団
司書	司書	アควアバイオ学科 札幌副都心開発公社「サンピアザ水族館」
		バイオセラピー学科 株式会社 三共消毒
IT関係企業	IT関係企業	分子生命化学科 東京レコードマネジメント株式会社
		農学科、バイオセラピー学科、醸造科学科、食品安全健康学科、バイオサイエンス学科、分子生命化学科、分子微生物学科、森林総合科学科、地域創成科学科、食料環境経済学科 計11名(令和2年4月現在)

関連組織に新しく就職された方は、是非、下記までご一報ください。



前号で紹介した「蓑」は、古来、わが国に伝わる防寒具や風雨から身を護る為の民具であった。今回紹介する「シヨイミノ」(写真)は、モノを背負う為のクッションの役目を持ち、藁ではなく布製である。しかも、赤系の布などが用いられ美しく編まれている。背中に羽織る民俗的なものは色鮮やかで派手なものが多い。それは背後が死角だけに、危険から身を護る為とされる。赤は太陽や血液をも表すとされ、作業中に事故に遭遇した時、神様に助けて貰う為に赤く目立つ布が用いられるともいう。山形県庄内地方では「バンドリ」、岩手県胆沢地方では単に「ゲラ」と呼び、地方によって形状も様々である。ケラは藁製でやはり赤い布が編みこまれている。

(Y)



資料名:シヨイミノ 受入番号:1969 収集地:栃木県今上市1975年
形状:全長90.0cm、腰当の幅21.0cm、厚さ1.6cm、背あきの幅14.5cm、肩当の長さ29.0cm、肩幅39.0cm、布製

学術情報課程通信 第9号

GAKUJUTSU JOHOKATEI TSUSHIN

東京農業大学
学術情報課程 発行

〒156-8502
東京都世田谷区桜丘1-1-1
電話 03-5477-2533

レイアウト・印刷/共立印刷株式会社
令和3年(2021)年2月28日 発行

<https://www.nodai.ac.jp/academics/info/>

編集後記

博物館、図書館、動植物園は新型コロナ禍のもと、展示や選書に工夫を凝らし、さらに資料のデジタル化やネット発信を充実させている。アマビエ(アマビコ)等の護符の発行、鬼との取り引き、あるいはモノノケ調伏など、病をもたらすものとの闘いを、時にユーモラスに繰り広げてきた人々の感性は、この閉塞感を突き破るように輝いている。(R)

表紙 ホワイト・ウルス 絶滅種、『ナチュラリスト・ライブラリー』1836年エディンバラ刊
スチール版手彩色、ウィリアム・ジャーディン編 学術情報課程所蔵

農事遺産 ⑨

―農大古農具コレクション―

東京農大農学部植物園に勤務して

前東京農業大学・厚木キャンパス植物園技術職員・学芸員 伊藤 健

農学部造園家学科を卒業し、副手として一般教養課程生物学研究室に、そして農学部植物園に技術職員として勤務、植物園の在籍期間は25年ほどになりました。初期の植物園は厚木農場全域を植物園として考えられていましたが、厚木農場に農学部が設置されることにより、工芸作物部門の温室2棟を含めた地域を植物園が直接管理する地域となり、この場所に熱帯植物を中心に様々の植物を収集保存してきました。ただし、キャンパス全域が植物園と考えられていることには変わりはなく、博物館法による博物館相当施設として指定されています。

厚木農場時代

植物園に就職し植物園の形を作るにあたっては、生物学研究室副手時代から興味を持ち収集していた資源植物としてのシユウガ科コレクションを充実させることを考えました。シユウガ科植物は東南アジアを中心に分布し、約50属2000種ほどみられるもので、香辛料などよく知られてはいますが、大半の日本人はシユウガミョウガは知っていても他の種類は知らないことが多い植物です。現在ではカレー粉の原料であるウコンがターメリックであることはよく知られるようになりました。

また、現在ではシユウガ科植物が香辛料だけではなく、花を楽しむ植物としても利用されてきています。現在では国内の植物園でシユウガ科植物がみられるようになってきてはいます



が、今から40年ほど前の段階では資源植物としての収集・保存している植物園はほぼ皆無に近かったものと思われます。

厚木農場から厚木キャンパス植物園へ

厚木農場の場所に農学部が移ったことにより、学生の中には植物に興味を持ち、植物の栽培を行いたいとの声がありました。私自身も1人で植物の管理を行っている関係から学生

の手を借りたいこともあり、植物に関心を持つ1〜2年生を中心に同好会を組織しました。日々の植物管理を通して植物個々の名前を覚え知識を深めることができました。同好会所属の学生には植物園施設内での植物の栽培が許可されるなどのメリットもあったようです。そして、同好会所属の卒業生の中には学芸員資格を取得し、現在、国内の植物園に勤務する者も出てきています。

植物園はキャンパス内にありますが、学生が普段いる研究棟、講義棟からは最も遠距離にあります。学生に植物園まで足を運び、植物に触れて、興味を持つってもらう必要があります。そこで、植物園で維持管理している植物を講義棟や研究棟の近くで見せることができると、アジサイ、サクラソウ、アサガオ等の植物を開花期に合わせて展示しました。また、植物園管理下の植物、厚木キャンパスすべてが植物園ということで植栽されている植物、二次林(雑木林)の植物、ときには通学路にみられる植物などを、花期、果実期の写真とともにA4に収めるように簡単に説明し、「植物園だより」として、その場所を含めてキャンパス内に掲示しました。併せて農大ホームページに「植物園だより」と称し公開しました。掲示し終わったものに関しては厚木キャンパス図書館「植物園だより」としてファイルされ、いつでも閲覧できるようになっています。

植物園における博物館実習

植物園は博物館相当施設として指定されていることは先に述べましたが、毎年10名前後の学生を博物館実習生として10日間受け入れてきました。他大の学生を受け入れたこともありますが、最近では、博物館実習生は網走・世田谷・厚木キャンパスの学生を対象で、網走キャンパスの学生は夏季休業中などを利用し実習を行い、世田谷・厚木キャンパスの学生は週に1回の実習を10回に分けて行っていました。10回

海と森と博物館と

私は、2019年度より富山市科学博物館の学芸員として仕事をしています。担当は脊椎動物分野です。当館は地域の科学博物館として開館以来40年以上たち、脊椎動物分野だけでなく4万点以上の標本があります。その整理と保存も業務の一つですが、自身の専門である哺乳類や鳥類はもちろんのこと、魚類、両生類、爬虫類と幅広い対応を求められます。状態や目的によつてアルコール等を用いた液浸標本、骨格標本、あるいは剥製標本などに加工し、その標本が財産として活用されるように日々、整理しています……。という間こえが良いですが、日々、空き時間を見ては、県内で拾われてきた動物の死体と向き合っています。

清水 海渡 Kaito SHIMIZU
1989年生まれ 神奈川県出身
農学部バイオセラピー学科 2011年卒
現職 富山市科学博物館 学芸員

球や口器など二部を標本として持ち帰りました。帰館後、すぐに液浸標本として処理をし、現在は大事に収蔵庫で保管しています。

さて、私自身は、大学生の頃からコウモリやモグラといった小型ほ乳類に魅了され、社会人になってからも時間の許す限り観察に明け暮れてきました。特にコウモリは、日本産37種類(絶滅種2種含む)のうち、27種類を野生下で観察しました。富山県では15種類のコウモリ



が報告されていますが、研究者が少ないこともあり、報告例は少ないのが現状です。自身の観察で洞窟や家屋などに生息するコウモリについては確認できていますが、樹洞で休息する森林性コウモリについては未解明な部分が多く、まだ研究課題が山積みです。これから本格的に県内におけるコウモリ相の解明と標本の収集をしていこうと意気込んでいます。

移動図書館のある町で

高野 史恵 Fumie TAKANO
1992年生まれ 東京都出身
生物産業学部 食品香粧学科 2014年卒
現職 町田市立図書館 会計年度任用職員 司書

私は、東京都町田市にある町田市立さるびあ図書館に勤務しています。町田市には中央館・地域館合わせて8館と移動図書館「そよかぜ号」3台があります。私が勤務するさるびあ図書館は「そよかぜ号」が2台あること、市立小中学校の学校図書館の支援貸出事業を行っていることが特徴として挙げられます。

移動図書館は市内60か所を巡回しています。限られた数の資料しか持つていくことができない為、巡回場所ごとの特徴を考え配架することを心がけています。楽しみに待っていてくださる利用者さんの「いつもありがとう」という言葉を聞くと、とてもやりがいを感じます。

学校図書館の支援貸出では、学校の先生から依頼を受け、利用する学年やテーマに合わせて資料を選書します。その際には、日々の新刊受入や配架作業で目になっている本の記憶も役に立ちます。図書館で働いていて思うのは、

に分けて実習を行うことにより、植物の成長の変化を理解できると思われます。実習は植物の管理が中心となりますが、毎回課題として先に述べた「植物園だより」も博物館実習生に作成してもらいました。

これからの植物園に期待すること

私が退職する前後から、薬用植物が主体の植物園構想も持ち上がりました。それまで、個人的にも資源植物として多くの植物を収集・保存し、展示したいと考えてもいままので、収集したものの中には薬用植物として利用されているものが数多くあります。現にシユウガ科植物などもそれに相当します。また、厚木キャンパスの二次林内にも多数の草本、木本植物が見られます。いままで植物園で収集・保存した植物、キャンパス内にみられる植物を見直し、新たな植物園として発展してもらいたいものです。



一見、直接関係のないことも知識として必要になるということです。

館内では児童サービス担当をしています。おはなし会や館内イベント・季節ごとの特集などを行います。おはなし会では、本や物語の楽しさを子どもたちに伝えるだけでなく、その機会の提供という意味からも大事な時間となっています。

私が司書の仕事で一番大切だと思うのは、利用者さんとの対話です。様々な理由や目的で、資料を探している方への確かな提供をするには、対話から必要な情報を聞き出すことが欠かせないからです。また、話しかけやすい雰囲気作りにつながるフロアワークや配架作業も大事にしています。司書経験はもちろん人生経験も活きる仕事なので、日々先輩方のご指導の下、勉強させてもらっています。

幼い頃から本が好きで司書に興味がありましたが、司書課程のない学部に進学を決めた為、大学卒業後に科目履修生として資格を取得しました。やりたいと思った事に挑戦してよかったと思っています。これからは色々な経験を大切に、頼られる司書を目指し頑張ります。

